

What?

Why?



所長 山本の

ワイズリレーインタビュー

第33回 小岩井農牧株式会社 小岩井農場観光部部長 戸田敦さんに聞きました!

岩手に小岩井農場物語あり。129年という歳月が紡いだ真の姿を世界に発信。

Q まずは業務内容と歴史を教えてくださいませんか?

戸田 小岩井農場は小岩井農牧が経営している民間の農場で、一次産業から三次産業まで行っています。歴史は、社名の通り農牧からスタートし、今年で129年になります。創業は1891年で、小野義真、岩崎弥之助、井上勝の3人で始めたので、「小岩井」という名前になりました。井上が農場の発案者ですが、鉄道庁の初代長官で、東京駅丸の内側に「日本鉄道の父」という銅像が建っています。岩崎は三菱を創業した岩崎弥太郎の弟で、三菱財閥の2代目で農場の出資者です。そして、小野は鉄道関係者でもあり、岩崎家の番頭のような役割をしていて、両者を結びつけた人です。井上の経営は当時、日本の輸出産業だった絹織物に着目し、桑の木と漆の木を植えました。が、土壌が悪くて8年で立ち行かなくなりました。その後を引き継いだのが、岩崎弥太郎の長男の岩崎久弥で、三菱の3代目社長です。火山灰土の痩せた土地には畜産業がいいだろうと考えましたが、この辺は風が強かったので、まずは牧草を植える前に防風林を整備しました。現在は、3,000haの敷地のうち2,000haが森林で、その90数%は人工林です。その他が採草地で、畜産と林業という、二本柱で始まった会社です。

Q 観光部はいつ頃できましたか?

戸田 前身は、だいたい昭和30年代です。向かいの牛舎は重要文化財ですが、岩手山がきれいに見えて、桜もきれいだったので、行楽客が訪れるようになり、その人たちにミルクスタンド的に牛乳を提供したところから始まったと聞いています。ちょうどモータリゼーションの時代で、あまりにもお客さんが増えて作業に支障をきたすということで、見晴らしのいいところに柵をめぐらせて、お客様専用の場所を決めたのが今の「まきば園」です。最初から一大リゾート地をつくらうという気持ちはなくて、後付け観光ですね。昔の写真を見ると、牛舎でお客様がお弁当を広げている横に牛が顔を出したりして、防疫衛生上、今は考えられない光景が普通だったようです。そして、観光部という名前前で本格的に事業として取り組み始めたのは1967年です。次の年から、すでに「いわて雪まつり」の前身の「小岩井かまくら」を始め、初代の部長が今のほとんどの基礎を築きました。



スポーツはロードバイクが趣味の戸田さん。朝一番に農場まで走ることもしばしば。柔軟な発想ができるよう、現場感覚を大切にしています。



Q 観光商品はこういったものを取り扱っていますか?

戸田 農場ならではの体験で、ガイド付きツアー「小岩井農場物語」があります。100年にわたる植林の話など農場の歴史や事業、それにまつわる宮沢賢治や重要文化財などの文化的な話、そして最先端の搾乳施設など、ファミリーが休日のんびり過ごすという面だけでなく、小岩井の真の姿と言いますか、本物の生産農場をご紹介しますところに近年は力を入れています。また、ここは、かつては利用価値のない火山灰土の湿地で、創業から現在まで土壌改良を続けており、今は緑豊かな土地になっています。モリアオガエルがいたり、沢にはカワシンジュガイやサワガニ、ゲンジやヘイケなどの蛭も飛び交っているので、人文的な資源だけでなく、自然も観光資源としてご紹介しています。

Q ビジネスを学ぶという面で来られる方もいますか?

戸田 三菱グループ企業的一端でもあるので、いい教材になると思います。私は盛岡出身ですが、ここは知れば知るほど、引き出しがいっぱいで、面白いところです。ビジネスはもちろんですが、特に地元の学生さんには地元学のフィールドワークの場として、ここにある素材をたくさん活用してもらえたら嬉しいですね。

Q 他社と違うセールスポイントを教えてください。

戸田 なかなか競合他社がないのですが、一次産業は酪農や種鶏、二次産業は乳業や製菓、三次産業は観光で

Monthly
Person



小岩井農牧株式会社 小岩井農場観光部部长

戸田 敦（とだ・あつし）

盛岡市出身、1956年生まれ。首都圏の大学で地理学を学んだ後、Uターン就職で、1981年に入社。営業をはじめ、売店や食堂の現場、管理部門、子会社への出向など様々な職務を経て、部長に就任。まきば園でのコンサート以来、スピッツのファン。



ちょうどイルミネーション期間にお邪魔しました。7回目を数えるイルミネーションは、毎年試行錯誤しながらの開催。冬の定番イベントに成長しています。



株式会社プリンスホテル東北地区総支配人 佐藤 光紀 さんからのご紹介



各々が一つ一つの会社みたいになっていて個性が際立っているところだと思います。

Q この仕事の魅力をお聞かせください。

戸田 お客様を楽しませる、驚かせると言いますか、なかなか感動させるまでは難しいのですが、思い出に残るお手伝いができるところに価値があるなと感じています。

Q 今は外国の方も多いですか？

戸田 季節問わず、団体も個人も増えてきています。震災以降、首都圏の中学校さんの来場が減少していて、その点では閑散期にも来てくれるインバウンドの誘客が今後のポイントです。なので、うちでも英語や中国語を話すネイティブの雇用を視野に入れています。通訳や営業活動はもちろん、社員が抵抗なく外国人と接することができるようにしたいですね。

Q ご自分なりの勉強や情報収集の方法はありますか？

戸田 読書が好きなので、本を読むようにしています。こういう観光業は何が役に立つのか分からない部分があります。アート関係も必要になってくるので、美術展や博物館を見に行ったり、できるだけ頭を柔らかくしようと思っています。あとは、いろいろな人と話す機会もあるので、講演会を聞いたりして、そういった方たちから刺激を受けたりしています。

Q これからの観光部としての目標をお聞かせください。

戸田 乳製品の知名度はありますが、実際、小岩井農場という実体が岩手県にあって、中に入って色々楽しめるということがまだ知られていない地域もあるので、場の魅力を発信していきたいです。小岩井農場がキャッチになってこのエリアに来ていただくと、周辺のお宿さんも潤いますし。それに、ここは戦後の農地改革で解散を迫られた時に周りの皆さんが協力してくださって残ったという経緯があるので、地元貢献という部分で連携しながら営業活動をして共存共栄を図っていきたいです。今は、4～11月のグリーンシーズンにどうやってお客様を呼ぶかが課題ですね。インバウンドや首都圏の人を呼ぶということが最大のポイントになってきます。生産農場として商品力には自信がありますので、

遠くの方が来てくれれば単価も高くなりますし、周辺への波及効果も大きいです。地元の方には、2,000円の年間パスポートがあるので、ドライブイン代わりに気軽に使ってもらえたら嬉しいです。入場料はもちろん、食事や買い物の割引もあってかなりお得ですが、実は利用されるのは通勤族の方が多いので、できれば地元の皆さんにフル活用していただきたいですね。

Q 個人としての目標をお聞かせください。

戸田 中国や台湾からのお客様が増えています。もともと漢文が好きだったので中国語を勉強したいです。視察や取材もあるので、そこで向こうの言葉でコミュニケーションを取って、自分なりに世界を広げていきたいです。

Q 仕事をする上で大切にしていることをお聞かせください。

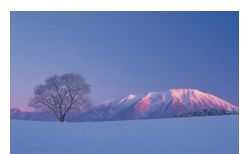
戸田 現場の人にいかにも同じ方向を向いてもらって気持ちよく働いてもらうかですね。食堂時代に現場の大切さを相当学びました。普段の気持ちをいかに保つかになりますが、従業員を引き立てて褒めるようにしています。20代の頃に上司からこれみよがしに褒められて、わざとらしいな〜と思って悪い気はしませんでした。責任者の立場になると、これが大事だなと思いますね。

Q 最後に好きなタイプの芸能人を教えてください！

戸田 夏菜ちゃんあたりがいいかなと思います。パツと明るい感じで。でも深い考えはないです。

◎ 本日はお忙しいところありがとうございました。

明治40年代に放牧していた牛の日除けのために植えられたという一本桜。冬は、冬ならではの美しさを湛えています。



小岩井農牧株式会社

小岩井農場：雫石町丸谷地 36-1 ☎ 019-692-4321
本社：東京都千代田区丸の内 2-5-2 三菱ビル 7F